

令和6年度宮城県刑務所出所者等就労・定着ネットワーク事業「リ・トライ！」

第1回プログラム実施報告書(rev.1)

- 1. 開催日時： 2024年6月22日(土) 14:00～15:45
- 2. 開催場所： 更生保護法人 宮城東華会 研修室
- 3. プログラム： ソーシャル・スキルズ・トレーニング(SST)

刑務所、少年院出所者座談会「仕事や生活の中で困る場面はありますか？」

- 4. 講師； SST 普及協会 認定講師 前 田 ケ イ 様
みやぎ心のケアセンター 渡 部 裕 一 様

- 5. 参加者状況と次回受講希望状況

表-1 に、第 1 回プログラム参加者の状況を示す。1 名が、次回会場と取り違えたため大幅に遅刻した。間違いに気づき、そのまま欠席することはせず、会場まで来た点は、参加意欲の表れであると感じた。一方で、郵送した会場案内が、第 1 回、第 2 回の両方を同封したため、取り違えを誘発した可能性は否めない。次回以降の案内へ活かすようにする。

1 名が、連絡なく欠席したが、理由は不明であり、話す機会が得られた時に、当日どんな状況だったか、などを伺いたいと思う。

したがって、第 1 回のプログラム受講者は、5 名であった。また、参加された方は、次回のプログラムについて、受講希望となっている。

SST①刑務所、少年院出所者座談会「仕事や生活の中で困る場面はありますか？」

日時： 令和6年6月22日(土) 7月20日(土)

	参加者	出欠	交通費	食料	備考	受講希望
1	H. A. さん	■	■	■	会場を間違えて、遅刻	■
2	D. Y. さん	■	□	■	宮城東華会居住	■
3	Y. H. さん	□	□	□	連絡なく欠席	□
4	T. K. さん	■	□	■	宮城東華会居住	■
5	M. S. さん	■	□	■	宮城東華会居住	■
6	H. S. さん	■	■	■		■
7	H. T. さん	■	■	■		■

表-1: 参加者状況と次回受講希望状況

- 6. プログラムの内容とその様子

第 1 回は、SST(ソーシャル・スキルズ・トレーニング)の初回であり、参加者が抱える仕事や生活での困るもしくは困った場面、リスクのある場面をペアワークで話し合い、リストアップした。話す際のルールとして、意見を否定しないことを共有しペアワークを実施。話して挙がった場面については、各グループから発表してもらい、人前で話す機会も作りだされている。

<事例の例> 講師より、刑務所や少年院などで、実際に SST を行った時の例をいくつか紹介いただいた

- ① 「お金を貸してくれ」と言われた時、どう断ったらいいか。
- ② ビル清掃の仕事の指示で、やる階を一気に 3 つくらい言われ、全部聞き取れなかった。どう聞きなおしたらいいか。
- ③ 住む場所を探すため不動産屋へ行った時、どう言ったらいいか、わからなかった。
- ④ 就職活動の面接の時、どうすればいいかわからなかった。 など

<ペアワークで挙がった事例>

- ① 仕事で上司から作業内容や出勤において、無茶な要求をされ、どう断ったらいいか、困ったことがある。たとえば、シフトでない時に出勤を命令され、しかも無給だったことがあった。飲食店勤務の時、別店舗に不足した食材を取りに行かされたが、ガソリン代など出してもらえなかった。
- ② 年金や税金など、役所の手続きがわからず、また誰に聞いたらいいかわからず困ったことがある。免除や控除の手続きなど、煩雑なものは、特に。役所に行けばいいとは思うが、平日は仕事だったため、いくことがままならなかった。
- ③ 仕事の指示がわからなかった時、どう聞いていいかわからず、聞いたら怒られたことがある。
- ④ 職場で嫌がらせをされたことがあるか、どう対処していいかわからなかった。
- ⑤ 1 人暮らしをした時、近所の方とどう接したらいいかわからなかった。
- ⑥ 就職の時、犯罪歴を知られた時、色メガネで見られる場合があり、どう対処したらいいかわからない。
- ⑦ 犯罪歴を開示すると、仕事につきにくい、もしくは職種が限られてしまい(土木関係がほとんど)、自分がやりたいとは違うため、すぐに退職したり、転職を繰り返してしまう。

→⑥、⑦について講師助言:開示選択の自由があるので、自ら考える必要がある。相談者がいるといい。

→参加者感じていること:ネット検索や SNS で身辺調査をされているのでは、と思ってしまい、猜疑心を持ってしまう。デジタルタトゥーとなっている。

以上、挙がった困りごとを講師陣で協議し、次回以降での教材としていく。

<SST の体験学習>

➤ 行動リハーサルのデモ

「近所付き合いの仕方」を例に、ロールプレイを行った。当事者は、アパートに引っ越してきたばかり。隣に住む方と、部屋を出ようとしたら、偶然同じタイミングで部屋から出てきた時の挨拶する場面を設定。

- ・対象者に対して、良かった点を伝える、褒める。
- ・さらに良くするといった点を伝える。
- ・再度ロールプレイで練習する。

➤ 問題解決法の体験学習

「お金を貸してくれ」を事例に、その断り方を列挙し、それぞれポジティブなところ、ネガティブなところを表形式でまとめる。自分一人では見つけられない解決方法があることを認識でき、次の行動の時に良いと思う方法を取り入れることができる。

- ① SST が、今後の自分の仕事や生活に役立ちそうであると感じた。継続して学びたい。
- ② 概ね、全員が有用なスキルトレーニングであると感じていた。
- ③ 今日のデモの「お金を貸してくれ」という場面は、自分の経験には無かった。次回以降、自分の困りごと場面を学べると思う。
- ④ SST 研修を受けたことが参加者からは、実際に身につけるためにはどうすればいいか、という質問があり、繰り返し練習すること、他の人の意見を取り入れることが大事であることが伝わったと思う。
- ⑤ 仕事の指示など、Yes か No のどちらか一方を選ぶだけが答えでないことがわかった。

初回としては、上々の滑り出しだったと思う。改善点もいくつか見つかったので、次回以降、より良い居場所となるよう、講師の方を始め、参加者からの意見を取り入れて改善していきたい。

- ① プログラム終了後のアンケート調査用紙を準備する。
- ② プログラム会場案内は、毎回 1 回分のみを参加者へ伝える。
- ③ プログラム前後での個別面談の持ち方を再考する。(前後の時間は、プログラム準備に時間がかかるため、別日程での調整の変更を検討する)
- ④ プログラム受講状況を評価する指標を開発し、回を追うごとの参加者の成長が数値化できるといい。検討する。

2024年6月24日
報告者：本間 巧



図-2:第1回プログラムチラシ(裏)